

輸出事業計画

※申請者名：札幌圏加工食品等輸出拡大連携協議会、 品目：菓子、ソース混合調味料

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 札幌圏加工食品等輸出拡大連携協議会は、札幌市、千歳市、苫小牧市、豊浦町、長沼町に農場のある農業法人4社と野菜卸売業1社で構成された組織で、大型の太陽光利用型ハウス栽培（通年栽培）において、トマトや葉ネギ、リーフレタス、ケールなどを生産するほか、有機認証を取得したルバーブを生産している。
- 協議会は、「札幌圏における加工食品の消費拡大」をミッションに、世界中の人たちに安全・安心な北海道産農産物の加工食品を提供する為の輸出拡大を目的としている。
- 現状輸出実績はないものの、今後野菜パウダーを活用した菓子やソース混合調味料の輸出に取り組む。

【課題】

- **生産・製造**
 - 現在、生鮮野菜を主とした商品展開しか取り組んでないため、輸出の対応は困難である。野菜のパウダー化技術導入により長期保存・流通が可能な、輸出に対応した加工製品開発に着手する必要がある。
- **加工**
 - 野菜パウダーを活用し、アジア市場のニーズに合わせた高付加価値な製品開発を進めるためのマーケティング情報を保有していない。
- **流通**
 - 開発製品の価値や素材の優位性を伝える、輸出相手国向けの販促資料がない。
- **販売**
 - 国外に向けた販路を持たないため海外事業者とかかわる機会を作る必要がある。
 - 展示会に代表される試作した菓子やソース混合調味料を展示・販売する機会がない。

2. 輸出事業計画の取組内容

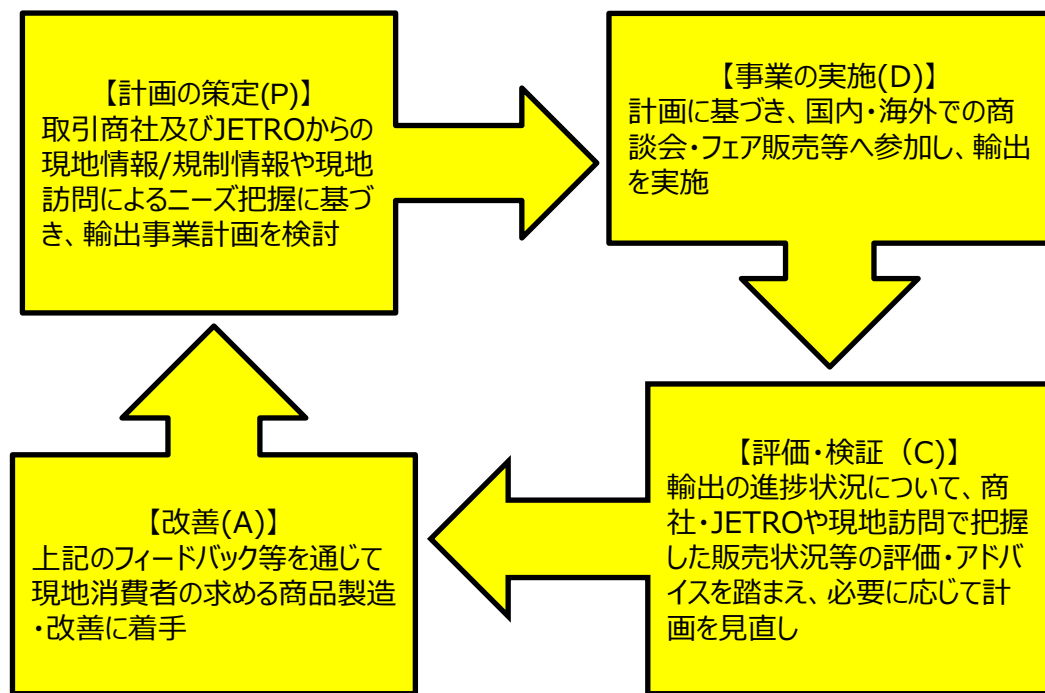
- **生産・製造**
 - 生鮮野菜を主体とした商品展開しか行っていない現状を鑑みて、加工食品の製造に取り組む。
 - 協議会構成事業者にて野菜パウダーを製造し、パウダーを調味料材料として輸出することに加え、パウダーを活用した混合調味料を製造・輸出する。
 - 農産物処理加工施設を整備し、長期保存が可能な野菜パウダーの製造技術を導入する。
- **加工**
 - 輸出に関してアドバイスを頂いている企業と定期的に打ち合わせを実施し、マーケティング情報を収集する。
 - 2022年8月に香港のフード・エキスポに参加し、商談会の中でマーケティング情報を獲得する。
 - 自社で製造した野菜パウダーを用いた試作品の開発を行う。
 - 菓子品目としては輸出産地登録事業者と共同で野菜パウダーと麴パウダーを組み合わせ、食品の健康機能性に焦点を当てた商品開発を進め、フード・エキスポで紹介する。
 - 北海道の事業者と共同で北海道産果実を使用したピューレ加工製品の開発を実施しており、輸出用商品としてデザインの変更等を行い、フード・エキスポで紹介する。
 - 輸出産地登録事業者と共同で長期常温流通が可能で、利便性が高く、調味料やスープとしての用途が広い味噌パウダー製品の開発を行う。
- **流通**
 - 国外の業者に向けた販促物（パンフレットやリーフレット）の開発やブランドロゴの整備、翻訳を行い、広く製品の魅力や特徴、汎用性を知ってもらう活動を行う。
 - 英語版パンフレット（小冊子）を2022年8月までに作成し、フード・エキスポで活用
 - 2026年3月までに英語版HPを作成予定
- **販売**
 - 野菜パウダーを用いた試作品を開発し、試験的に2022年8月に香港で開催されるアジア有数の食品見本市フード・エキスポに出展し、試作製品のアジア市場における評価を調査・検証し、今後の製品改良に資する。
 - 2022年10月より北海道貿易振興会が運営する北海道どんごプラザシンガポール店にてテスト販売を実施する
 - 2023年のスーパーマーケット・トレードショー、FOODEXに出展

輸出事業計画

※申請者名：札幌圏加工食品等輸出拡大連携協議会、

品目：菓子、ソース混合調味料

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

野菜入り粉パウダー製品	【現状】 (令和3年度)	【目標】 (令和7年度)
輸出額	0	500万円
主な輸出先	-	香港・シンガポール
果実ピューレ加工製品	【現状】 (令和3年度)	【目標】 (令和7年度)
輸出額	0	500万円
主な輸出先	-	香港・シンガポール
味噌パウダー製品	【現状】 (令和3年度)	【目標】 (令和7年度)
輸出額	0	500万円
主な輸出先	-	香港・シンガポール

- ・ 令和7年度にそれぞれの品目で500万円を目標額とする。
- ・ 香港・シンガポールへの輸出に注力する。